

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス e g g		
○保護者評価実施期間	令和7年2月18日		～ 令和7年3月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	令和7年2月18日		～ 令和7年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案をチームで行い、活動プログラムが固定化しないように工夫されているか。	日々のミーティングでみんなで意見交換し、「遊びの中から学びを」をテーマに、様々な角度からアプローチする事で、できる経験を積み重ねる事ができるようにしている。児童さんの成長に合わせた活動を行いながら、保護者の方と決めた目標に向かって日々取り組んでいる。また、今年度からは5領域を意識した取り組みを行う事で、職員全体が目的意識を今まで以上に持ち支援する事ができている。	今後も何を目的としてこの活動をするのかを常に念頭におき、子ども一人一人の全体像を把握し、共有していきながら、今後の支援に繋げていく。
2	個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援しているか。自己決定する力を育てる為の支援を行っているか。	活動は、現在2つに分かれて行い、予め担当スタッフとこどものグループ分けを行っている。子どもが予定の活動とは別の活動に参加したい時は、柔軟に対応し、自分の気持ちを伝える事ができた事、また、どっちの活動に参加したいか悩んでいる子は話しを聞きながら、気持ちを引き出すようにしている。また、活動以外でも、積極的に個人活動(マンツーマンproject)を意識して支援できる時間を設けている。	子どもが、やらされているという感覚ではなく、やりたい！と思えるような内容と環境を今後も作りながら、難しい所はサポートし、できた所は沢山褒めていく。また、限られた時間の中でも、個人活動(マンツーマンproject)を意識した関わりを実践していく。
3	子どもや保護者との意思の疎通や保護者への連絡、相談等	日々の出来事、支援は連絡帳や活動記録用紙の他、送迎時に子どもの様子をありのままにお伝えするようにしている。また、面談の機会以外でも、気になる事があれば、連絡を取り合い、最近の e g g の様子や本人の気持ちを伝え、学校やご家庭での様子を情報共有している。	事業所と保護者の間で、気持ちの誤差が生じないように、今後も子どもの気持ちを尊重しながら支援に活かしていくと共に、保護者といつでも相談し合える関係性を継続し、子どもの成長を支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士やきょうだい同士の交流について	子どもの年齢が幅広い中、それぞれのライフスタイルや考え方がある中で、保護者がご家族同士の交流の場を必要としているかは不明。	保護者の希望があり、総合的にできる環境になれば、取組む事を検討していく。
2	他の関係機関との連携	定期的な会議には必ず出席し、情報共有、今後の支援に向けて連携できるようにしているが、医療機関や主治医との話し合い等は行った事がない。	保護者から、面談等の機会を通して、受診の様子や主治医からのアドバイスを共有しながら、支援に携わっているが、直接的に話しをした事はない。学校の先生とは送迎時、支援について相談に乗ってもらったり、情報を共有できるようにしている。
3	地域の方々との交流の機会が少ない。	外出先や、お買い物に出かける時等は、地域で暮らす子どもや大人と接する機会はあるが、事業所の行事に地域住民を招待する等は行った事がない。	地域の方々との交流を図る時間を設ける事は現状難しいと考えているが、どのような形で、どのように行っていくのかなど、必要性も含め、慎重にすすめていきたい。地域で暮らす子どもや大人との接する機会は今後も継続していく。